

ワーカーズ・コレクティブアナベル 3月1日法人創立



法人化に向けて話し合いを重ねてきました
自律するということは「覚悟をもつということ」だったと
上原代表のお話、みんなでそれぞれのやりたいこと（夢）を
出し合ったり、話し合いも何度も重ねてきました。
これからも個別配送事業を中心にワーカーズがさらに発展していけるよう学びを続けていき、
他のワーカーズも見に行ったり話を聞いたりしていきたい。



将来こんな事出来たらいいな
注文と一緒に お弁当（おにぎり）
話し相手 安否確認
掃除・片付け ゴミ出し 草取り
見守り 託児（保育所）
空き家 遺品整理
カフェ）

長野ワーカーズ・コレクティブ連合会では、5月23日（土）通常総会を開催
2026年度は会員同士の理解とつながりをさらに強め、生活クラブ組合員はもとより、自分たちが
住み暮らす地域へワーカーズ運動・生活クラブ運動を広げていきます。そのための仕組みづくりや
ビジョンを作成し、新たなワーカーズ・コレクティブの創出を目指します。

第17回ワーカーズ・コレクティブ全国大会inTOKYOに参加してきました！

主人公は自分 ～協同で働き、ともに生きる～

全国から1108人のワーカーズの仲間たちが集結

協同労働・協同組合の重要性を再確認しワーカーズ・コレクティブの未来について
有益な意見交換が行われた同大会に、

長野から総勢30名（ワーカーズ26名、理事会4名）で参加してきました。

11月29日（土）全体会

腑に落ちる働き方で、心も体もチャキチャキさ！

ワーカーズ・コレクティブの枠を超えた多種多様な事例発表から

「協同労働」を考える

イントロダクション 松本典子さん（駒澤大学経済学部現代応用経済学科教授）

研究者の立場から、たくさんの「労働者協同組合」の取り組みを紹介、

メンバーが代わりあってリーダーシップを発揮する

＝シェアド・リーダーシップが運営するうえで重要だと話されました。

事例報告 こんな働き方もあるんだ異彩を放つ「協同労働」を実践する団体

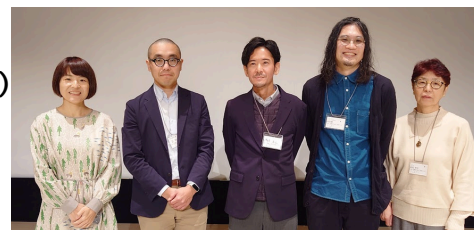
エイトバードカンパニー労働者協同組合・・・安定した事業から上がった収益を地域貢献に

労働者協同組合わっぱ社会的協同組合・・・社会的排除をされた人と誰もが共に働き共に生きる

アーバンス合同会社・・・理想の社会を組織内の中だけでも体現しよう「つくりこまないゆるさ」

(N)ACTたすけあいワーカーズハミング・・・ワーカーズ・コレクティブの代表として

まずは協同労働の多様性を柔軟に受け入れる。そこから新しい働き方の可能性が広がっていく。



5つの分科会では活発な意見交換や議論がありました。それぞれに参加した感想！

第1分科会

パートナーシップで生み出す価値 力をあわせて一歩前進する契機にするために！！



国際協同組合同年

協同組合はよりよい世界を築きます

～異なる協同組合が共にすすめるまちづくり～

生活クラブとW.Coが進めてきた実践例から「W.Co内の組織運営や合意形成」について「労働者協同組合つどい」では、生活クラブからチラシ丁合や電話注文業務などを受託している組織で、障害のある方も含め、30～70代までの総勢137名が働いている合計7つのW.Coで構成されています。衝撃を受けたのは、その研修プログラム！「W.Coとは」を学ぶ雇用時研修に、課題を見つけ解決策をみんなで考えるための研修など、生活クラブやW.Coを知らずに仲間になる人もいる中で、自分で考え行動する、責任を持って働くという強い意思を共に育み合うことが、委託関係の中でW.Coの主体性を発揮していくことにつながるというお話に共感しました。配達という労働をするだけではない、消費材が大好きな生活クラブ組合員だからこそできる私たちの「幸せを実感できるまちづくり」をみんなで語らい、「働く」がさらに楽しい！と思えるようにしていきたいと思いました。



生活クラブ長野 草野永典常務
登壇者として

生活クラブとW.Coの連携のお話

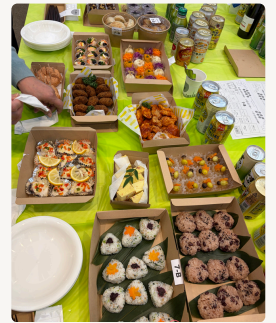
第2分科会

地域の悩みを食で解決！ つながることから始めよう

「食べること」で地域貢献している事例

私が暮らすまちのヒントになるかもと副題にひかれて参加、ワーカーズの事例発表の内容は濃く充実したものでした。事業の段階は成熟期から、更に次の展開（ワーカーズを定年退職した人たちがまた別のワーカーズを立ち上げて、ワーカーズからの受託事業を行っているなど）お話を聞いて、誰もが暮らしやすい社会を上げていきたいと強く思いました。

この全国大会でW.Coの仲間と2日間行動をともにして、自分達の目標や夢を共有できたこと、一人ひとりの力は小さいけど、皆の力を合わせれば、実現できる可能性を感じる有意義な時間でした。



懇親会は食のW.Co手づくり

第3分科会

人とのつながりで地域を元気に！

～世代を超えてたすけあい支えあいのコミュニケーションづくり～

赤ちゃんから高齢者まで優しく辛がる居場所とは！？

不登校35万人、生活困窮者の増加、高齢者・引きこもり・日曜日の子供の孤立、産後うつ等の増加、それに伴う児童虐待の増加・・・現代社会の中に問題は山積みで、それをなんとかしたいと様々な居場所がたくさん作られていることを知りました。居場所に集うことでその人の異変に気がつくことができたり、継続して参加することで自立支援につながるなど、「居場所」の大切さを改めて感じました。行政の手が届かないところを補完できるのが民間、しかしどの団体も資金不足が課題になっています。そんな中 mamana houseでは、

企業とギブアンドテイクで事業を行っていて、その運営方法は大変参考になりました。首都圏では居場所作りがすごく進んでいることを実感しました



首都圏では居場所作りがすごく進んでいることを実感しました

第4分科会

事業は継続しなけりや意味がない！ ～模索・挑戦・希望～

・訪問介護ワーカーズ「ことりと風」のお話、訪問介護を担う人が居なければ成り立たない、これに直面して他団体との交流に踏み切った事で、事業の継続に繋がったそうです。「一緒にやってくれませんか」と声をかけたところ、「面白そうですね！」と、とても前向きなお返事がもらえて非常に心強く思ったそうです。やはり、こうした「あきらめない」気持ちが大切だと感動しました。

・ワーカーズ毎からは、個別配送を希望するも、総代会では効率が悪いと却下され、理事会の理解を得るために奔走し、ようやく配送に漕ぎつけるも、トラックは自前の中古でした。ところが、トラックが盗まれるという大変なことが、でもこれが転機になり、お弁当事業を開始して今では「社会的就労支援」にも取り組んでいる。たすけあい、共に働く皆さんが、素晴らしく素敵だと思いました。

地域のかまどの
岡澤三保子さん
「共に働く」登壇者

第5分科会

違っていいOK！「共に働く」～始まりはここに居るひとりから～

様々な人と当たり前フラットに働く事業の現状と可能性を学ぶ

地域の課題解決や、障害があり働く場所が無い、生活クラブで働きたいと相談があり、無いものは作ろうから始めましたと高橋徳治商店の高橋さんのお話の中から、生産性を重視するばかりでは、そこに当てはまらない人はどんどん取り残されてしまう。失敗しても時間をかけてもいいよと、お互いが共に認め合うことで同じ職場に働く人にも変化がみられ長い年月をかけてリーダーになって人に教えることができるようになることができる。「共に働く」中で共に学びあいながら進めていく素晴らしさ。

また生活クラブとW.Coが共に進めてきた事業の報告では、組合員の生活をサポートする仕組みや機能の充実をはかる「家事支援」を事業とし、新たな利用者を増やすことや働きづらさを抱えながらその人らしく働ける場の創出を行っている事例など、生活クラブはバックボーンとしての役割をもち、一つ一つは小さいW.Coを生活クラブのもつ情報を活かし支えていきますとパートナーとして連携していくお話が聞けました。

